

ほのかの

日常活動

高橋 義孝

Cさん(横地分類A1)は、職員の話や楽器の音、語りかけが聞こえてくると、少し離れた場所においても音や声がある方向に顔を向けてじっと聞いています。徐々に変化していく音を感じることができるようになり、風船の中に小豆を入れて鳴らししました。鳴らし始めは音を聞くことよりも、職員の表情や風船の動きを見て笑っていることが多く、音には関心がないようでした。繰り返し鳴らしていくうちに、動きを見て笑っている表情から一点を見つめじっと音を傾けていました。微かに聞こえるくらいの小さな音で鳴らすと、真剣な表情に変わりました。手足の動きも止まりじっと耳を澄ませて聞いているようでした。徐々に音を大きくさせていくと、真剣な表情から少し微笑んだ表情に変わっていききました。小さな音から段々と大きくなったり小さくなったりする音の変化に面白さを感じているようでした。

「おおきなかぶ」を語りかけるとすぐに、職員の顔をじっと見て聞き始めます。読み始めは職員の顔を見たまま表情を変えずにじっと聞いていました。「○○が○○をひっぱって」のフレーズの繰り返しを聞いていくうちに、徐々に表情が緩み始めました。「○○をひっぱって」の「ひっぱって」の言い切ったようなフレーズに面白さを感じてい



るようでした。「ひっぱって」が最後まで繰り返し出てくる語りかけを、微笑んだ表情で集中して聞いていました。「およげたいやきくん」をゆつたりと歌いかけました。歌い始めは歌を聞くことよりも、歌いかけている職員の表情を見て笑い出してしまうことが多いのですが、繰り返し歌っているうちに、一点を見つめて聞き始めました。前半

の「まいにちまいにち」と低い音程が続く部分は身体の動きを止めてじっと聞いていて、「はじめておよいだうみのそこ」の段々と曲調が盛り上がっていき、盛り上がるにつれて、表情が緩み始め手足が動き出しています。「うみはひろいぜこころがはずむ」で盛り上がり切った後で、「ももいろさんごが」と曲調が再びゆつたりとした感じになると、先程まで表情を緩ませ動かしていた手足の動きが止まり、またじっと歌を聞き始めていました。ゆつたりとした歌の中にある、徐々に盛り上がる曲調の変化を感じて、集中して聞いているようでした。



フェスタおおぞら

10月14日(日)に「フェスタおおぞら」を開催いたしました。去年は台風の影響でフェスタおおぞらが中止となったため、2年ぶりの開催となりました。模擬店や近隣の福祉施設の方々によるフリーマーケットが開かれたほか、イベントでは1・2・3号館の各ゾーンにてギター演奏をおこないました。



さわやかな秋晴れの中、多くの方々に来場いただきました。ボランティアさんをはじめ、参加いただいた皆様、ありがとうございました。

